

## 第5節 外国語活動

### 1 基本的な考え方

#### (1) 外国語活動における学ぶ意欲を高める指導法の工夫と学習環境づくりの在り方

##### ア 小学校学習指導要領の目標

平成20年度の小学校学習指導要領告示において、小学校に「外国語活動」が導入され、平成23年度からすべての小学校で外国語活動が全面実施されることとなる。「外国語活動」の目標は以下の通りである。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

この目標は、3つの柱「言語や文化に関する体験的な理解」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと」を踏まえた活動を総合的に体験することで、中・高等学校における外国語学習につながるコミュニケーション能力の素地を構築しようとするものである。

つまり、小学校における外国語活動は体験重視であり、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、積極的に相手の思いを理解しようとしたり、他者に自分の考えや思いを伝えようとする態度の育成が求められているのである。

そのような態度の育成を図るためには、児童が興味・関心をもち、外国語を使って自分の言いたいことを伝えたいと思える内容が必要であり、外国語で積極的にコミュニケーションを図ることができるような学習環境が必要となる。

##### イ プロジェクト型外国語活動

平成19年度、20年度の2年間にわたり、奈良県立教育研究所（以下、研究所）の指定研究事業プロジェクト研究において、「小学校における英語活動の指導の在り方」と題し、「プロジェクト型」の英語活動の効果的な指導の在り方について研究がなされた。

ここで、「プログラム型」の英語活動と「プロジェクト型」の英語活動についてその特徴を説明したい。

東野・高島(2007)は、「プログラム型」英語活動と「プロジェクト型」英語活動について以下のように説明し、「プログラム型の」活動から「プロジェクト型」の活動への転換の必要性を強調している。本書の中で、「あらかじめ授業内容が定められ、児童はこれに従って学習していく形のカリキュラムを「プログラム型カリキュラム」と呼び、そのカリキュラムに従って展開される英語活動を「プログラム型英語活動」としている。

###### 「プログラム型英語活動」

1時間の授業で活動を完結せざるを得ないために、次の授業時間との間隔が空き、内容的なつながりも不十分となり、活動を通して学んだことが積み上がりにくいという問題が生じる。また、活動が1時間の授業の中で細分化され、細部までもが教員によって決められていることで、小学校教育で重要視される「主体的・創造的」な活動とはほど遠いものになる。このため児童の意欲や関心を高め、それらを持続させることは極めて困難となる。

###### 「プロジェクト型英語活動」

ある特定の課題を解決するために、数時間をまとめ取りしてグループなどで児童の主体

性・自主性を最大限尊重しながら、創造的な活動をさせるものである。単発・並列的なプログラム型カリキュラムから、体系・組織的な活動の集積であるプロジェクト型カリキュラムへの転換により、児童の興味・関心は持続し、小学校教育の意義と合致した活動を学級担任が中心となり、他の教科や領域と同じように自信を持って授業を行うことが可能となる。  
『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』より

## ウ 現状と課題

平成19年度、20年度に当研究所が取り組んだ研究で、「プロジェクト型」の英語活動の指導を行うことにより、どの学年の児童も英語に対する興味をもち、意欲を失わずに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を示すようになることが分かった。また、「プロジェクト型」の英語活動の前に「プログラム型」の英語活動を設定し、「プロジェクト型」の英語活動で活用できる表現を児童に学習させた。児童は、その活動の中で学習した英語の表現を使って、自分の思いを伝えたいという気持ちの高まりを見せた。

そこで、本研究では、「プロジェクト型外国語活動」を以下のように定義し、児童に外国語活動の楽しさを感じさせ、学ぶ意欲を高める活動の在り方を探る研究を進めることにした。

平成19年度、20年度において研究所が研究した小学校の英語活動における「プロジェクト型」の英語活動の有効性を引き継ぎ、新設された「外国語活動」においても先行研究の結果を生かせるものと判断し、研究を続けることにする。従って、「プロジェクト型外国語活動」とは、外国語活動の年間指導計画の中で、数時間をまとめ取りをして、ある特定の課題を解決するために、児童にグループなどで行わせる創造的な活動である。この課題解決の過程で、児童は課題や課題解決の方法など、必要な活動を自主的に決定していくため、活動が主体的・創造的なものになり、児童の興味は最後まで持続することになる。

しかし、前研究では、前述の通りプロジェクト型の英語活動の成果は検証されたのだが、課題として、「より効果的に取り組めるように、その土台となるプログラム型の英語活動をふまえた、系統だった学校全体としての指導計画の作成があげられる。プロジェクト型の英語活動は、その特性上、内容が多方面に広がりやすい。児童の主体性・自主性を最大限尊重するためにも、様々な場面に対応できるような指導計画の作成が必要である。」としている。

そこで、本研究では、英語ノートを活用したプログラム型の活動を土台としてプロジェクト型外国語活動を行うこととした。このことにより、英語ノートで学習した既習事項をプロジェクト型外国語活動で活用することができるため、英語の語彙や文法構造などの知識が十分ではない小学生であっても、英語を使った言語活動における課題解決的な学習が可能となると考える。

また、本研究では、先行研究の取組に加え、外国語指導助手（以下、ALT）を導入することで、既習の表現を使って、ALTと楽しくコミュニケーションを取る中で、児童の学ぶ意欲を高めることを目標とする。活動中でのALTの役割としては、活動で使うモデル・ダイアログを示したり、児童の発音練習のモデルとなったりする。また、英文作成時に、児童からの質問に答えたり、ある程度発表の準備ができた児童の発話の発音チェックなどをしてもらったりすることになる。

さらに、東野・高島(2007)は、「英語活動を考えていくとき、他の教科や領域との関連を考えることは大切である。」と述べている。そこで、本研究では、他教科と関連させることにより、プロジェクト型外国語活動がより効果的に展開できるものと考え、「総合的な学習

の時間」と関連させて、プロジェクト型外国語活動の時間内では、日本文を作成する時間を削減し、既習表現の復習及びALTや学級担任の補助の下、英語文に訳すなど、英語に触れる時間を確保するよう工夫した。

## エ 仮説

上記の課題及び考え方を踏まえ、児童の興味を持続させ学ぶ意欲を高めるために、次のような仮説を設定し、プロジェクト型外国語活動を実施した。

- ① 英語ノートを活用した年間指導計画の中にプロジェクト型外国語活動を位置付けることで、より学んだ表現が活用しやすくなり、英語を伝えようとする児童の意欲を向上させることができる。
- ② ALTをプロジェクト型外国語活で毎時間活用することにより、ネイティブ・スピーカーと英語でコミュニケーションを図ることに自信をもたせ、楽しく英語を学ぼうとする意欲を向上させることができる。
- ③ 掲示物や絵を用いた教材を活用することで、プロジェクト型外国語活動に必要な英語の語彙や表現をより定着させることができる。

## (2) 学ぶ意欲を高める指導方法の工夫と学習環境づくりの具体策

### ア 学ぶ意欲を高めるための指導法の工夫

具体的な取組として、桜井市立桜井小学校が新校舎へ移転するにあたり、取り壊される旧校舎や桜井小学校の歴史などについて英語で紹介するDVDを作成し、桜井小学校のホームページで公開することにした。さらに、本研究において研究所のALTを導入したのだが、ALTが作成しているニュースレターの中でも児童の活動を紹介することで、広く県内外に発信することにした。また、他教科と関連させる工夫として、「総合的な学習の時間」を活用した。「総合的な学習の時間」の中では、桜井小学校を紹介するためのテーマをグループごとに設定し、そのテーマについて調べた後、一人一文ずつ紹介したい日本語の文章を作成する。「総合的な学習の時間」と関連させることにより、外国語活動の時間を、英語ノートなどで学習した既習表現や写真などを使い、自分の言いたいことを英語で表現する時間にしていった。

### イ 学習環境づくりの具体的な工夫

本研究においては、ALTを人的環境ととらえ、児童がネイティブ・スピーカーと直接英語でコミュニケーションを取る場面を設定するために、ALTを活用する。外国語活動の中で、ALTと既習の英語表現を使ってコミュニケーションを取ることで、児童が英語の楽しさを感じ、学ぶ意欲を高めることを目標としている。活動中でのALTの役割としては、前述したように、活動で使うモデル・ダイアログを示したり、児童の発音練習のモデルとなったりする。また、英文作成時に、児童からの質問に答えたり、ある程度発表の準備ができた児童の発音チェックなどをしたりすることになる。

また、英語の語彙や表現をより定着させるために、掲示物や教材を作成する。具体的な方法を以下にまとめる。

- ① 毎授業の目標会話表現を授業後に英語ルームに掲示する。
- ② 掲示物は、絵を大きくすることで、児童が既習表現を思い出す手助けとなるよう工夫する。
- ③ ①の掲示物は、次のレッスンが始まるまで掲示するが、児童の定着の様子を見ながら、

取り外す。ただし、①のうち、プロジェクト型外国語学習で使用する表現は、その活動が終了するまで掲示する。

- ④ 絵カードを作成し、新出の表現を学習する際に使用することで、英語の語彙や表現をより定着させる。

以上のように、既習表現を掲示することにより、その表現が児童により定着し、絵カードをヒントにして英語の表現に慣れてくるため、プロジェクト型外国語学習を行う際に、児童自らが既習表現を使って表現できるようになるものとする。

### (3) 学ぶ意欲の評価と分析

本研究における学ぶ意欲の評価とその分析方法については、プロジェクト型外国語活動の事前・事後アンケート及び毎授業後の振り返りシートにより、児童の外国語活動に取り組む姿勢や内容を確認し、その変化を見ることとする。

## 2 事例

単元 「桜井小学校のあゆみ」を英語で紹介しよう

### (1) 単元の構想

平成23年度からの外国語活動の全面実施にあたり、平成22年度においては、5・6年生は時間割に週1回、英語を学習する時間を設定し、年間35時間実施した。そのうち、7回、A L Tを活用した。

昨年度から空き教室を英語ルームとして活用し、外国語活動の時間は英語ルームに移動して授業を行ってきた。また、英語ノートの指導がしやすいように専用のパソコン、プロジェクターを英語ルームに設置し、I C Tを活用した授業を展開した。英語ルームには、世界地図や英語のポスターなどを掲示し、外国語に慣れ親しむ環境を設定するとともに、学習した内容を授業後に掲示し、学習内容を思い出せるように工夫した。

本学級の児童は、学習に対して真面目に取り組む児童が多い。また、外国語活動には大変積極的に参加しており、発音練習の時も大きな声を出し意欲的に取り組んでいる。授業では英語ノートを中心に学習しており、パソコンやプロジェクター、電子黒板を利用した学習にも取り組んでいる。

本校では、毎年「桜井っ子フェスティバル」の期間を設けて、バザーや学習発表会を行い、保護者をはじめ地域の方との交流をしている。主に総合的な学習の時間で、学習発表の準備をしている。6年生は例年であると「戦争と平和」の学習をしていたのだが、今年から桜井小学校の校舎の建て替えが始まるにあたり、桜井小学校の歴史を振り返ることになった。桜井小学校は、明治5年の学制が始まって以来、創立137年の歴史をもつ伝統校である。寺子屋から始まり今は2代目の校舎であるが、その校舎で過ごす最後の年である今年度は、桜井小学校の歴史を知り、多くの人に知ってもらおうと、6年生は「桜井小学校のあゆみ」に取り組んだ。児童は、自らの手で学校の沿革史を調べたり、学校の古いアルバムを見たり、卒業生に聞き取り調査を行ったりした。

本学級の児童は、外国語学習には積極的に取り組んでおり、外国語活動への興味・関心は高いように思われる。そこで、上記の総合的な学習の時間の取組と関連させ、外国の方々にも自分たちの学校を知ってもらいたいという思いから、「『桜井小学校のあゆみ』を英語で紹介しよう」という課題を設定するに至った。そこで、自分たちが考えた英語の紹介文を外

国の方々に知ってもらう手段として、桜井小学校を紹介している自分たちの姿や内容をDVDに収め、それを小学校のホームページで公開することにしたのである。このDVD作りを通して、児童に自ら考えた目標に到達する達成感を味わわせるとともに、自信をもたせ、英語を学習する意欲を高めたいと考えた。

前述のように、本校には年間7回ALTが来校し、外国語活動を実施することになっているが、来校回数が限られるため、本プロジェクト型外国語活動では研究所のALTを活用し学級担任とALTとのチームティーチングを行った。その中で、英語ノートの復習を含め、今回のプロジェクト型外国語活動に必要な表現を児童に定着させることにした。ALTが入ることにより、児童にネイティブスピーカーの英語を直接聞かせることができるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度も養えると考えた。

## (2) 単元の目標と評価の観点

単元の目標	評価の観点
・DVD作りのために、グループで積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
・既習の表現や自分たちの考えを表すために必要な表現に慣れ親しみ、積極的に使おうとする。	・言語や文化についての体験的理解を深める。
・自分たちが考えた紹介文を英語にしたり、正確に発音するために、積極的にALTに質問する。	・音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

## (3) 指導の流れ（総合的な学習の時間全5時、外国語活動全5時）

	学習活動	指導上の留意点及び準備物等
総合第1時	○桜井小学校の歴史を調べて紹介しよう。 ・グループ及び調べるテーマを決める。 ●学校の始まり ●今の校舎について ●昔の学習や生活の様子 ●学校の校歌や児童数について ●卒業生に聞く ●新しい校舎について	・「桜井っ子フェスティバル」で全校児童各家庭、地域の人に発信することを知らせる。 ・桜井小学校のホームページから調べた内容を発信し、外国の方々にも知ってもらうこととする。 ・自分が調べるものを決める。
総合第2・3時	○グループで発表する写真や資料を探そう。 ・グループごとに発表に使用する写真、資料を選定する。	・昔のアルバム ・学校沿革史 ・発表に効果的な写真、資料を選ぶように助言する。
総合第4時	○選んだ写真に合う文章を作る。 ○選んだ資料をノートにまとめる。 ・日本語で考える。 ・分かりやすい文章を考える。	・各グループの発表時間（1グループ5～6分）を知らせ、それに合う文章を考えさせる。 ・使用する写真や資料と文章が合っている

・  
5  
時



か考えさせる。

外国語活動第1・2・3時

○日本語で考えた文章から、英語に直す文章を考える。

- ・一人一文にし、短い文を作成する。
- ・使用する写真や資料を検討する。

- ・自分たちが考えた文章の中で、最も伝えたい内容や文を選ぶように助言する。
- ・文に合った写真や資料を選ばせる。

○紹介に必要な表現を知る。



<基本表現>

Hello.  
We are Group A.  
We will introduce ~.  
Thank you.



- ・ALTに質問することで、積極的なコミュニケーションにつなげる。



○日本語の文章を英語でどのように表現するか考える。

- ・和英辞典で調べる。
- ・ALTや担任と相談しながら英語の文章を考える。

- ・和英辞典を使って、自分たちで英語を調べることができることを知り、英語に対する興味をもたせる。



<p>外国語活動第4時</p>	<p>○作成した英語の紹介文を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにALTとの練習を通して、ALTに発音を確認してもらう。</li> </ul> <p>○グループごとにリハーサルを行う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確に伝わるように、正しく発音することを心がけさせる。</li> <li>・ゆっくりと大きな声を出させる。</li> <li>・間違っている発音については、もう一度練習させる。</li> </ul> 
<p>外国語活動第5時</p>	<p>○ビデオ撮影をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や資料を見せながら、大きな声で発表する。</li> <li>・日本語で言ってから、英語で発表する。</li> <li>・全員でビデオを見て、意見交流をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくりと大きな声を出させる。</li> </ul> 

**(4) 学ぶことへの関心・意欲を高める掲示物及び教材の工夫**

**ア 教室掲示物**

本研究においては、2種類の教室掲示物を作成した。いずれも活動の目標会話表現を記した掲示物である。1つは、活動の中で使用した後、次のレッスンが始まるまで英語ルームに掲示し、表現の定着を図るものである。①はその例で、この種の掲示物を2枚作成した。

もう1つはプロジェクト型外国語活動で使用する表現を記した掲示物である。そのため、プロジェクト型外国語活動が終了するまで英語ルームに掲示し、表現の定着を図るものである。②から④の3枚の掲示物を作成したのだが、児童は活動に必要な表現を即座に思い出し、活用できたようである。

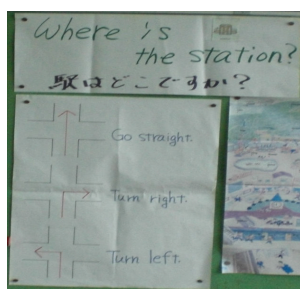


図1 掲示物①

道案内のレッスンで使用した掲示物である。次のレッスンが始まるまで英語ルームの掲示板に掲示した。

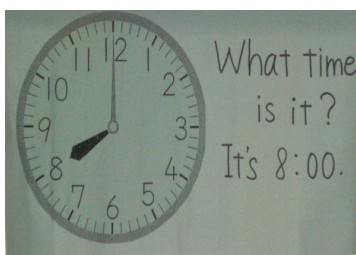


図2 掲示物②

時間を学習するレッスンで使用した。プロジェクト型外国語活動で、時を表す表現を使ったため、英語ルームに、プロジェクト型外国語活動終了まで掲示し、表現の定着を図った。

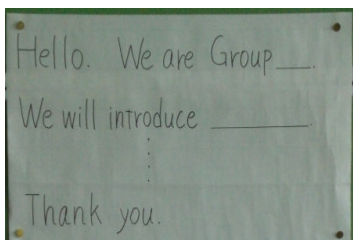


図3 掲示物③

プロジェクト型外国語活動で使用する表現である。プロジェクト型外国語活動が終了するまで英語ルームに掲示し、定着を図った。



図4 掲示物④

自分の一日を紹介するレッスンと、プロジェクト型外国語活動で使用する表現を組み合わせたものである。プロジェクト型外国語活動が終了するまで英語ルームに掲示し、定着を図った。

## イ 絵カード

その他の使用教材として、動作絵カード10枚、動物絵カード10枚、建物絵カード27枚、教科絵カード9枚、その他ビンゴ絵カード1セットを作成した。各レッスンの表現導入時に使用した他、毎プロジェクト型外国語活動の導入の表現を復習する際に繰り返し使用し、表現の定着を図った。絵カードについては、市販の教材があるのだが、市販の教材の多くは、文字を使用していない。外国語活動では、文字を定着させる必要はないのだが、本研究のプロジェクト型外国語活動では、活動を補助するものとして、絵カードに文字を添えた。以下はその例である。

絵カード①



プロジェクト型外国語活動で使用する表現である。活動の中で、復習時に使用し、定着を図った。

絵カード②



道案内のレッスンで使用した絵カードである。プロジェクト型外国語活動で使用する表現であるので、活動の中で、復習時に使用し、定着を図った。



**(5) 指導の実際**

**ア 本時の目標 (Theme)**

「桜井小学校のあゆみ」を英語で紹介しよう。

**イ 本時のねらい (Aims)**

グループに分かれて、既習の英語表現を使い、ALTに質問しながら、桜井小学校を紹介する英文を作る。

**ウ 言語材料 (Language materials)**

Topic	Vocabulary	Target Dialogue
Greetings	fine, good, hungry, sleepy etc.	Good morning. How are you? I'm ~. Thank you.
Review	get up / go to bed / eat dinner / eat school lunch / play table tennis / play volleyball / play basketball / study / go to school / take a bath / play the piano / watch TV / clean / go home / cook / swim / play soccer / play baseball	What am I doing?
話題	言語材料	目標会話表現
あいさつ	元気、よい、おなががすいている、眠い、など	おはよう。元気ですか。 私は～です。ありがとう。
復習	起きる、寝る、夕食を食べる、給食を食べる、卓球をする、バレーボールをする、バスケットボールをする、勉強する、学校に行く、風呂に入る、ピアノをひく、テレビを見る、掃除をする、家に帰る、料理をする、泳ぐ、サッカーをする、野球をする	私は何をしていますでしょうか。

**エ 準備物 (Activity materials)**

動作絵カード、パソコン、和英辞書、総合的な学習の時間に用いたプリント

**オ 展開 (Procedure)**

展開 (Procedure)	児童の活動 (Students' activity)	担任及びALTの活動 (HRT and ALT's activity)	備考 (Notes)
1 あいさつ	・指導者とあいさつする。	・元気よくあいさつし、児童一人一人に話しかける。	
2 本時の活動、めあての確認	・本時の活動内容、めあてを確認する。	・本時の活動内容を伝え、めあてを確認させる。	
3 復習	・ALTの後について動作を表す表現を繰り返す。 ・担任の指示を聞き、活動	・ALTが動作に関する絵カードを見せながら、英語の動作表現を繰り返させる。	動作に関する絵カード

	<p>内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェスチャーを見て、何をしているところか推測し、英語で答える。</li> <li>・前に出ている児童の動作を見て、何をしているところか英語で答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任がジェスチャー・ゲームをすることを伝える。</li> <li>・ALTが動作に関する絵カードを担当に見せ担任がその動作をし、児童にそれがどのような動作か尋ねる。</li> <li>・数人の児童を前に来させ、動作に関する絵カードを見せ、動作をさせる。</li> </ul>	
4 桜井小学校の紹介文作成及び発音練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の指示を聞き、活動の内容を理解する。</li> <li>・グループに分かれ、指導者に質問しながら、英文を完成する。</li> <li>・ALTと共に発音練習をする。</li> <li>・グループごとに、作成した英文を1文ずつ発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に引き続き、グループに分かれて桜井小学校を紹介する文を完成するよう伝える。</li> <li>・指導者は各グループを巡回し、児童の質問に答える。</li> <li>・ALTはグループを巡回し、発音練習をさせる。</li> <li>・グループごとに1文ずつ発表させる。（「紹介文より一部抜粋」参照）</li> </ul>	総合的な学習の時間で用いたプリント、パソコン、和英辞書
5 まとめとあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに記入する。</li> <li>・あいさつをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動の楽しかった点などをまとめ、振り返りシートに記入するよう伝える。</li> <li>・あいさつをする。</li> </ul>	

(以下、紹介文より一部抜粋)

● The beginning of Sakurai Elementary School 「桜井小学校の始まり」

○ Our school started in Raikoji-temple as *Terakoya*, a temple school.

「学校は、来迎寺(らいこうじ)で寺子屋として始まりました。」

○ Sakurai Elementary School started on October 20th, 1972.

「明治5年(1872年)10月20日に桜井小学校ができました。」

○ The old school building was near Showa Park.

「昔の校舎は今の昭和公園の近くにありました。」

○ In 1964, the new school building was built in this place.

「1964年に今の場所に校舎ができました。」

○ In 1984, Sakurai Nishi Elementary School started, and some children went to Sakurai Elementary School and some children went to Sakurai Nishi Elementary School.

「1984年に桜井西小学校ができ、そこへ行く児童と桜井小学校へ行く児童とに分かれました。」

● The old style of studying and textbooks 「昔の学習の様子や教科書」

○ This is a picture of the old P.E. class. They practiced fighting during the war.

「この写真は昔の体育の様子です。戦争をしていたので、戦う練習をしました。」

- This is a picture of the old exercising horizontal bars in the P.E. class. Some old horizontal bars were made of wood.

「この写真は昔の体育の鉄棒の様子です。昔の鉄棒は木も使われていました。」

- This is a picture of the old textbooks. Many *katakana* were used there.

「この写真は昔の教科書です。カタカナが多く使われていました。」

- This is a picture of the old science class. The students dissected fish.

「この写真は昔の理科の学習です。児童は魚の解剖をしました。」

● Information from the graduates 「卒業生に聞く」

- Some students went to school at 6:30, because of the wide school zone.

「校区が広くて6時30分に家を出る児童がいた。」

- 60 years ago, we had 3 classes in a grade, called Class い, Class ろ and Class は; now we have Class 1 or Class 2.

「60年前クラスは3クラスあり、1組とか2組という呼び方ではなく、「い」「ろ」「は」というクラスだった。」

- They didn't have school lunch. They brought their own lunch.

「給食がなくてお弁当を食べていた。」

- They went to their school trip to Kyoto or Amanohashidate.

「修学旅行は、京都や天橋立に行っていた。」

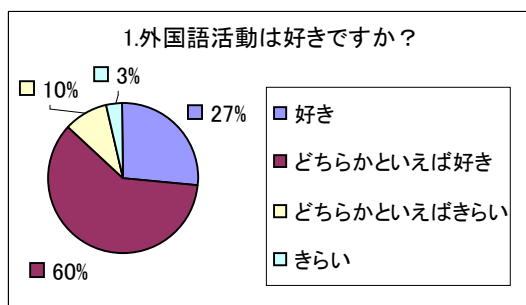
(6) 成果と課題

ア アンケート結果と考察

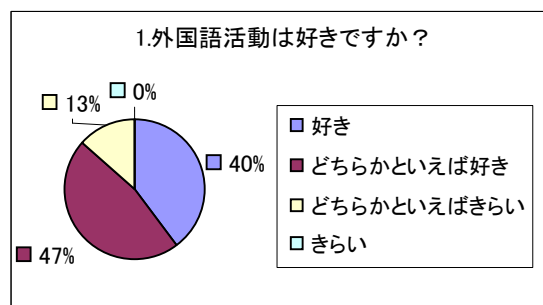
前述した仮説で示した3点を検証するために、桜井小学校6年2組の児童30名に対し、9月に外国語活動に関する事前アンケート、12月に事後アンケートを実施した。また、毎授業後に振り返りシートを使って、児童の本時の授業に対する感想及び印象に残った活動内容を確認した。以下がアンケートの結果である。

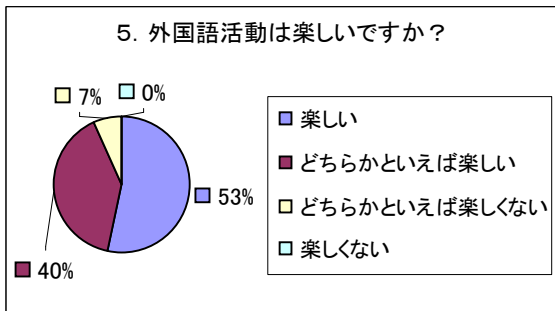
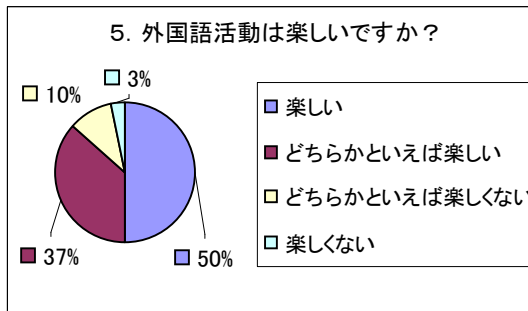
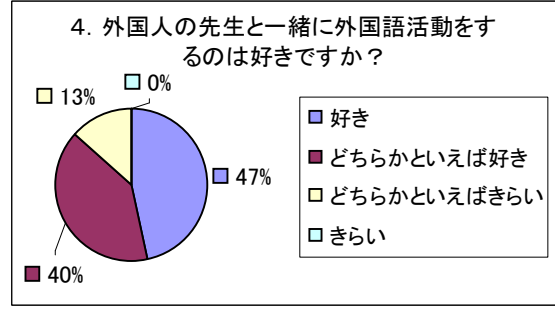
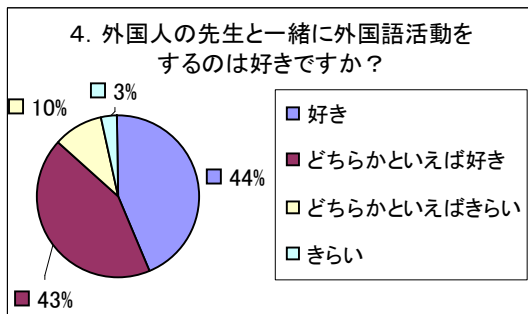
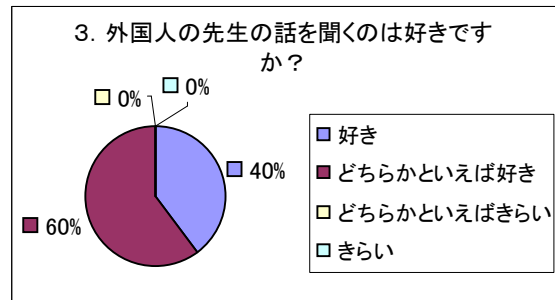
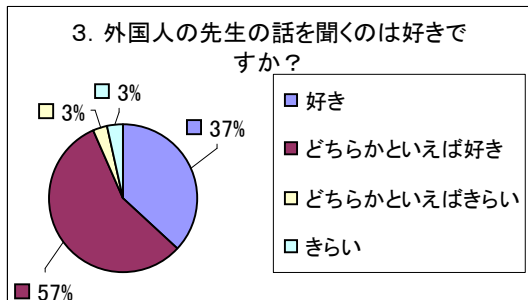
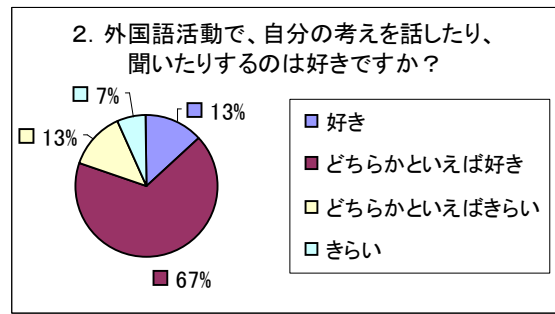
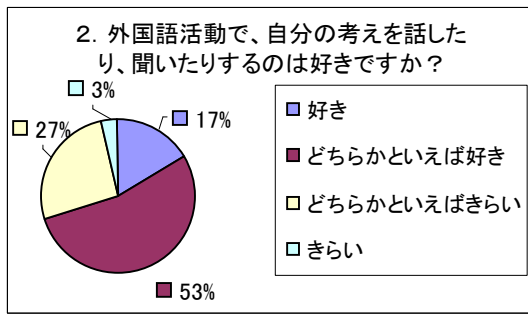
外国語活動に関するアンケート結果

プロジェクト型外国語活動取組前

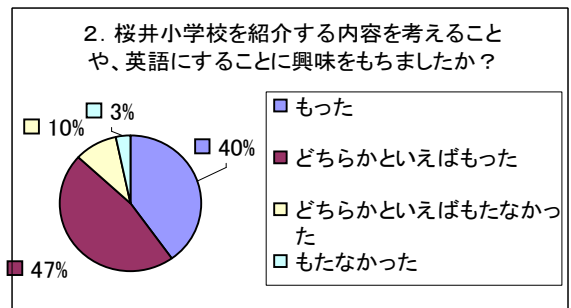
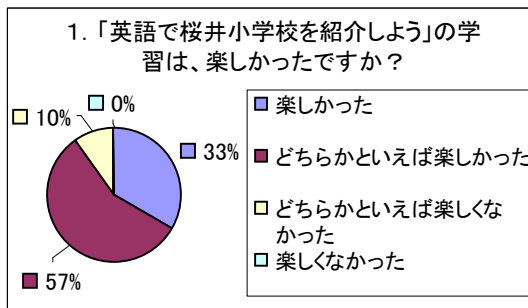


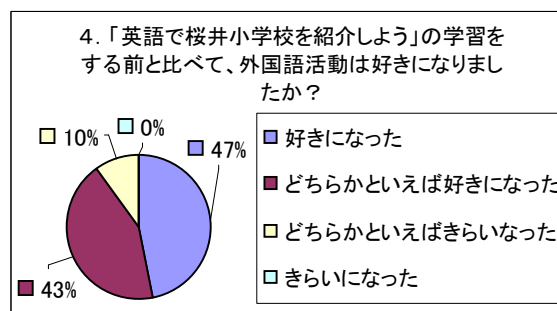
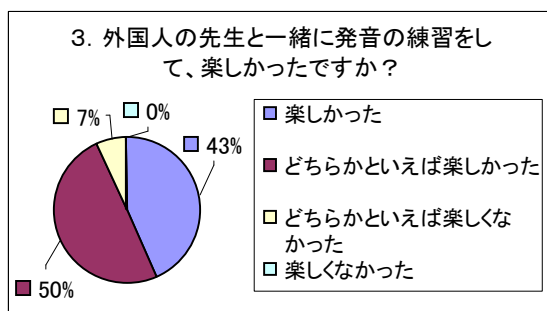
プロジェクト型外国語活動取組後





プロジェクト型外国語活動に関するアンケート





外国語活動に関するアンケート結果より、質問1で外国語活動が「きれい」と答えた児童はいなくなったものの、「どちらかといえばきれい」「きれい」と答えた児童数は13%と変わらなかった。しかし、質問5の「外国語活動は楽しいですか」で、「どちらかといえば楽しくない」「楽しくない」と答えた児童数が、13%から7%に減少しており、楽しく外国語活動に取り組めた児童が増えたようである。この様子は、毎時間の振り返りシート結果でも顕著に表れており、「今日の授業は楽しくなかった」と答えた児童はいなかった。楽しかった内容として、振り返りシートで、児童は次のような点を上げている。(以下、一部抜粋。)

- ・ALTの先生としゃべることができたこと。
- ・ALTの先生に表現を教えてもらったこと。
- ・みんなでゲームをしながら勉強できたこと。
- ・発表することを英語で言うことができたこと。
- ・和英辞典で単語を調べたこと。

また、質問2で自分の考えを話したり聞いたりするのが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童が70%から80%へと増加しており、児童の多くが英語で自らの考えを表現することの楽しさを感じたと言える。これは、プロジェクト型外国語活動に関するアンケート、質問1、質問4においても顕著に表れており、プロジェクト型外国語活動の有効性を示すものである。さらに、ALTとの活動を楽しく感じたり、興味をもったりした児童の割合が非常に高かった。このことから、ALTが外国語活動に加わることにより、児童は楽しく活動でき、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が向上すると言える。

## イ 研究の成果と今後の課題

この取組の中で、児童は他の児童や担任、ALTとコミュニケーションを取りながら、積極的に活動に取り組んでいた。高学年になると恥ずかしさから、積極的に手を挙げることができない児童が増えるのであるが、自分たちの小学校について外国の方々に英語で伝えるということに意欲を示し、ふだん手を挙げることのない児童も手を挙げたり、大きな声で紹介文の発音練習を行ったりするなど、授業へ積極的に参加する姿が見られたことは大きな成果であった。これは、毎時間のはじめ10分間、英語ノート等で学習した既習表現の復習として、ジェスチャーゲームやビンゴゲームを取り入れ、児童が楽しく和やかな雰囲気ですれらの表現に繰り返し触れることで、必要な表現が児童に定着し、プロジェクト型外国語活動に生かされたためであると考えられる。それと同時に、自分たちの取組をホームページで公開して発信するというはっきりとした目的をもって学習に取り組めたので、児童の外国語活動に対する意欲が高まったためとも考えられる。

また、ALTと担任とがティームティーチングによる授業を展開したことで、児童は直接ALTに質問したり、ネイティブ・スピーカーの発音に触れることができた。児童がALT

と接することにより、楽しく英語を学び、自信をもって積極的にコミュニケーションを取る態度が身に付いたように思われる。ALTとのチームティーチングについては、ALTの訪問回数が限られ、打ち合わせをする時間がなかったため、昨年までは十分に行えなかったが、今回、綿密な打ち合わせをしたことで、スムーズに展開することができた。英語が専門でない担任が試行錯誤して必死にALTとコミュニケーションしている姿を見せたことは、担任が英語を話すモデルとなり、児童も安心して活動に取り組むことにつながった。さらに、総合的な学習の時間と関連させたことで、外国語活動で英語を使用する時間を確保できたことも、成果につながる要因であった。

プロジェクト型外国語活動で使用する表現を定着させるために、目標会話表現を掲示し、新出の表現を導入する際に英単語が書かれた絵カードを使用した。前述の児童が作成した紹介文の抜粋からも、児童は自分たちが伝えたい紹介文を英語ノート等で学習した表現や単語を活用して作成したことが分かる。このことから、掲示物や絵カード等の教材を使用し、必要な表現を繰り返し提示したことで、ある程度は児童にそれらの表現が定着したと言えよう。ただし、掲示物の効果に関する検証と結果分析については、もう少し具体的かつ客観的な方法を取り入れるなど、工夫が必要であり、今後の課題として検討する必要がある。

さらに、今回のプロジェクト型外国語活動のテーマが、『桜井小学校のあゆみ』を英語で紹介しようであったのだが、「総合的な学習の時間」に作成した日本文の表現の中に児童にとっては難しいものがあった。児童は英語に直す際、既習表現は使用できたものの、文法上の事項を知らないため、辞書で調べた単語をどのように組み立てればよいか戸惑ったようである。できる限り簡単な英文になるよう配慮したものの、このような文法にかかわる問題が発生するため、日本文を作成させる際により平易な文にするよう促したり、あらかじめ児童が調べられる英語表現を明示する等、教材研究を行う際に工夫が必要であった。また、導入部分で、若干教員主導になったきらいがあるが、プロジェクト型外国語活動が進むにつれて、他の授業ではなかなか集中できない児童も自ら率先して学級担任やALTに質問したり、紹介文を覚えたりと、積極的に活動する姿が見られたことは、大きな成果であると言える。今後、プロジェクト型外国語活動を展開する際、児童の主体性を最大限尊重しながら、活動の必然性をさらに感じさせるよう設定を工夫する必要がある。

## 参考・引用文献

- (1) 文部科学省（平成20年3月）『小学校学習指導要領』pp.107-109
- (2) 文部科学省（平成20年8月）『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版
- (3) 兼重昇・直山木綿子(2008)『小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編』明治図書
- (4) 奈良県立教育研究所ホームページ(2008)「小学校における英語活動の指導の在り方」  
<http://www.nara-c.ed.jp/gakushi/kiyou/h20/data/B-pro/B-A1.pdf>
- (5) 東野祐子、高島英幸(2007)『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』高陵社書店